

科目名	基礎演習Ⅳ D					単位	2.0
担当教員	浅野 玄誠						
授業形態	演習	開講期間	後期	配当年次	2	授業番号	4110

●授業のテーマ

大学での研究の方法と意義

●到達目標

- ・大学において専門的な研究を行うための手順と方法を理解する。
- ・主体的にテーマを見つけ出し、その研究ために必要な方法論を構築できるようになる。

●学習内容(授業概要)

大学で学ぶということは、どのような要求をみたし、何を手に入れることをいうのだろう。知識を得ることはもちろんであるが、その知識は、どんな欲求にもとづき、どのような種類のものであるべきなのだろうか。

この授業では、大学の歴史的意義を求め、学問のめざすものを考え、その知的作業がどのように自分たちの人間力の形成に役立つかを理解する。その上で、世界遺産を中心にテーマを絞り、「テーマ設定」→「素材の収集」→「素材の分析と考案」→「プレゼンテーション」という一連の学問作業を経験することを目的とする。

●学習内容(授業計画)

≪前期≫

1. 大学(University)の歴史
2. 普遍的な真理と具体的な実践
3. テーマの発見のための手段
4. テーマ追求の多様な方法論
5. 個性や多様性と普遍性との関係
6. 文章作成法—文章の骨格—
7. 文章作成法—文章の展開—
8. 文章作成法—修辞法の功罪—
9. 世界遺産から一つを選択して、研究と発表の方法を学ぶ
10. (1) 学生3名の世界遺産についての研究発表
11. (2) 学生3名の世界遺産についての研究発表
12. (3) 学生3名の世界遺産についての研究発表
13. (4) 学生3名の世界遺産についての研究発表
14. 研究発表と質疑応答に応じたレポート作成の方法を教授
15. レポートの評価

●準備学習・事後学習の内容

- ・事前に論文やビデオ作品などを指定するので、きちんと見聞して評価できるよう準備する。
- ・事後指導に従ってレポート提出する。

●成績評価方法・基準

平常点 (50%) 発表後のレポート (50%)

●テキスト (必携)

論文や論書をあらかじめ読ませておいて、授業の中でトピックスをいくつか用意して、議論やディベートをさせる。

論文形式の文書に慣れてきたところで、世界遺産を紹介し、興味あるものを選択させ、テーマを設けて発表させる。発表後、その内容を斟酌してレポートが課せられるので、受講者は決められた日時までに決められた内容でレポートを提出する。

●参考文献／その他

授業の中で、必要に応じて推奨する

●履修上の注意

大学における研究の方法が、高校までの学習と大きく異なることを、演習を通じて理解することを目的とする。研究テーマについては、答えを求めるのではなく、そのプロセスを大切にすることを念頭において欲しい。